

第1課題 教育課程に関する課題

研究主題 「魅力ある学校として存在価値を高める教育課程と教頭の役割」

西都支会

1 主題設定の理由

西都市では、市内5中学校を妻地区の1校に再編し、2026年(令和8年)4月に開校する計画が進んでいる。そこで、今現在の各中学校におけるこれまで培ってきた特色ある実践や取組を共有することで、再編した学校で更に魅力的な学校と地域との連携や学校行事・学校運営のために生かすことができるのではないかと考える。

以上のことから、教頭が様々な場面においての多様な教育環境整備を担い、リーダーシップを発揮することがより良い学校再編の力になると考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

各学校及び各地区でこれまで培ってきた特色ある取組を各学校で互いに共有し、ビルドアップしていくことで、地域にとって魅力ある学校として存在価値を高めていく。

3 研究の概要と成果

(1) 研究内容

各中学校での学校と地域社会との繋がりを生かした特色ある取組の共有

(2) 各校での取組

【三財小中学校の取組】

○ 「確かな学力の向上」

基礎学力の定着と読解力の向上を目指し、次のような取組を行っている。

① 毎日10分程度で解答できる宿題を課し、翌朝15分間の朝学習で関連課題に取り組ませる。(例:コラムを視写→意見をまとめる等)

② 特に低学力の生徒の実態と課題を明確にし、全職員で具体的な手立てを共通理解し実践する。また、定期的に振り返り指導方法の改善を図る。

○ 教頭としての関わり

朝学習の課題は、各教科ともに読解力を育てる内容となるよう共通理解を図らせるとともに、全職員による指導を見守り称賛するようにしている。また、個別の学習支援についても、職員の主体性やアイデアを尊重しつつ、PDCAサイクルによる組織的な実践となるよう助言している。

○ 成果

個別の学習支援については、1学期の取組を振り返り、指導方法の工夫改善を図った。また、朝学習の取組が習慣化し、全職員が指導に関わることで個別指導も充実している。その結果、情報を読み取り、分析し、整理する力が少しずつ向上し、単元テストの結果にも表れるようになってきた。

【銀鏡中学校の取組】

○ 「地域人材を生かした地域社会とのつながり」

地域人材を生かし、「はちみつ体験」「田植え体験」「銀鏡神楽」などの地域連携行事がある。地域の事業所や山村留学の里親が保護者として参画しており、全職員で行事に参加し、児童生徒と共に地域社会とのつながりをもっている。

○ 教頭としての関わり

里親を含む地域人材の高齢化が進んでおり、企画・運営に携わる負担感が増加している。地域住民及び職員との連携で、神楽や舞などの伝統芸能の練習日程を調整している。企画・運営が困難な場合は、「東米良創生会」の協力を仰いでいる。

○ 成果

「山村留学制度」「家族留学制度」において、若年労働層が微増するとともに、「東米良創生会」を中心とした、就学前児童の教育体制が整っている。

【穂北中学校の取組】

○ キャリア教育の効果の1つとして「学ぶ意欲の向上」があると考えている。そこで穂北中校区(穂北中・穂北小・茶臼原小)は、令和4年度「宮崎の未来を築くキャリア教育研究推進事業」のモデル指定を受け、生徒の主体的・協働的な学びを促進する取組を進めている。具体的な取組として6月と8月に3校または本校の全職員が参加する「キャリア教育研修会」を実施した。「地域との協働による人材育成」をキーワードに、県内外で地域の協働活動をリードする講師を招聘しそのクロストークを実施した。また西都市では「さいと学」の見直し作業を進めており、職業人講話「キャリアみらいゼミ」、生徒会役員の交流活動「中学校生徒フォーラム」、探究的な学び(地

域貢献プロジェクト)の発表「さいと学アワード」に本年度から取り組んでいる。

○ 教頭としての関わり

本校では、対外的な業務を校長が、校内のとりまとめを教頭が行っている。各種研修会等での講師の人選については、校長にお願いし、教頭としては、当日の研修会の会場運営や職員への指導、講師への謝辞などを担った。本年度依頼した講師の方々との関わりを足がかりに、今後は人材のネットワークの中に自分も加わり、今後のキャリア教育を企画・推進していく必要がある。

○ 成果

キャリア教育研修会を通して、地域との協働活動に全職員で取り組もうという意識が向上した。

【妻中学校の取組】～中学校の再編に向けて～

○ 「オール西都生徒会校則検討委員会」

中学校の再編に向けて各校の校則を市内共通にしていこうと、再編対象に入っていない銀鏡中を含む全6校の生徒、教諭、PTA代表らでつくる委員会を設置した。7月末、各校の校則のうち、改正したい事項を提案して議論を行った。

○ 教頭としての関わり

各校の生徒指導主事や生徒会担当教諭と共に、本委員会における事前の協議や準備にあたった。また、7月末に実施した「オール西都生徒会校則検討委員会」では、全体の議事の進行を担い、活発で意義ある意見交換の場となるよう尽力した。

○ 成果

市内中学校の再編を前にしたタイミングに、学校生活において重要な校則について、生徒や先生方、PTAらの代表者が、「何のため?」「誰のため?」ということを真剣に熱心に議論できたことは、未来の社会は自分たちでつくる意識を育む主権者教育につながるものであり、新中学校設立の機運の醸成にもつながった。

【都於郡中学校の取組】

○ 「学級経営の取組」

都於郡中学校では、学級経営の取組にQU、サポート、NINO、NRT、全国学力学習状況調査、みやざき学習状況調査、総合学力調査などのデータ分析をもとに学級集団づくりをめざしている。この取組は2年目を迎え昨年度の実践をもとにさらにその実践を広めている。学級づくりはアクティブラーニングの基礎になることであり、学力向上の重要な部分という

意識づけをしている。

○ 教頭としての関わり

QUやサポート、NINO、NRTの分析の仕方、活用の仕方を本校の先生方や西都市内の先生方に広め共に学ぶ環境づくりをしている。これからの学校は、客観的なエビデンスをもとに、分析から活用につなげる事の重要性を意識づけしている。

○ 成果

本校のように、小学校時代から同じ学級で生活してきた関係はなかなか発展させることが難しい中、データ分析によって教科によってグループメンバーを変え、ゆるやかな人間関係づくりから、支え合う(サポート)する授業によってアクティブなラーニング実践が行われ、学力の向上に成果を上げている。

【三納小中学校の取組】

○ 小中一貫教育の推進

三納小中学校では、通常業務に係る会議だけでなく、小中合同教科部会、乗り入れ授業、小中合同研修会、個別の教育的支援を必要とする児童生徒の共通理解・実践に向けた小中合同サポート委員会等を頻繁に実施し、小中一貫教育の推進を図っている。

○ 教頭としての関わり

各職員の役割、職員に身に付けてもらいたい力、指導の場等を明確にして、職員の小中一貫教育に関する資質・能力の向上を図ることができるよう心がけている。例えば、キャリア教育、ICT教育等の研修を設定し、小中各職員が、それぞれの役割や強みを生かして研修の講師となるよう調整している。また、研修内容の加筆及び修正を行い、小中一貫教育を考慮した研修となるよう小中両教頭が連携して講師の職員をサポートしている。

○ 成果

学習指導においては、学習に悩みを抱える児童生徒の共通理解と9年間を見据えた指導をよりよく行うことができるようになった。また、生徒指導においては、中1ギャップの緩和、学習規律・生活規律の定着を図ることができるようになった。さらに、職員においては、小・中学校間における授業観や評価観の差が縮小できた。加えて、校務分掌運営、研修等の効率化を図ることができるようになった。その他、学校運営における問題点を小中連携により改善できるようになった。

4 今後の課題

学校再編までの3年間で教育課程編成におけるスリム化を図っていかなければならない。